

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第330号 平成12年6月



松原貞一

目 次

	頁		頁
1. 理事会報告	広報部 … 2	4. 地区だより	
2. 会員通知・医師会の動き	事務局 … 8	青梅地区	石井好明 … 14
3. 各部だより		青梅地区	片平潤一 … 14
学術インフォメーション	学術部 … 10	5. 文芸随筆諸事百般	
公立阿伎留病院外来部門		歌壇 新 緑	鹿野純一 … 15
診療担当医表	広報部 … 13	短歌 鯉のぼり	鹿野純一 … 15
青梅市立総合病院救急医学科		6. 同好会短信	
	広報部 … 14	写真部写真展案内	松原貞一 … 16
		7. お知らせ	事務局 … 16
		8. 表紙のことば	松原貞一 … 17
		9. あとがき	森本 晋 … 17

理事会報告

★ Information

5月定例理事会

平成12年5月9日

西多摩医師会館

【1】 報告事項

(I) 福生病院公立化検討委員会報告

福生病院移管準備室から“福生病院のめざすべき方向”の最終報告がなされ、福生病院移管スケジュールが発表された。これに対して西多摩医師会を代表する委員会として今後継続して討議していく予定。

まずは次のような事項について準備室側と検討していきたい。

(1) 医療体制の整備と医療サービスの充実

① 医師の確保とインホームドコンセント

大学、医局は偏ることなく、公募も考慮し、広く人材を集める。

② 看護職員

地域の雇用秩序を乱すことなく採用すること。

③ 病院の管理運営

給与管理等オープンにする（給与体系は確認する）

④ 患者の待ち時間

FAXによる予約制を導入

⑤ 医療情報の提供

医療連携推進事業と連携する

(2) 地域医療機関との医療連携

院内に地域医療連携室を作り、そこを窓口にして、患者の紹介、逆紹介を行う。

また、在宅医療に対する支援（ベット確保）。

(3) 高度専門医療の充実

循環器科、小児科の充実、脳外科の整備。感染症、TB病棟の存続。

将来改築時には、アンジオ、カテ室、CCUや放射線治療室の設置を要望。

(4) 救急医療体制の整備

将来は院内に1次救急を受け入れる場所を確保し、それまでは、羽村の平日夜間急患センターを存続させる。

(5) 病院施設の整備

医療相談室に難病対策相談

(6) 効率的な病院経営

小児科等不採算部門も公立病院のたてまえから運営努力する。

(II) 各部報告

(各部長)

(経理部) 経理部会(4月26日)、会計監査会(5月1日)の報告。

- (産業医) 西多摩医師会産業医研修会開催予定
 日時：平成12年7月29日(土) 12:55～18:10
 会場：青梅市立総合病院
 会員の皆様には後日通知します。
 また、これから産業医の資格を取得しようとする方への案内を出します。
- (学術部) 学術委員の追加
 阿伎留病院 馬場眞澄先生 福生病院 諸角強英先生

(Ⅲ) 各地区会よりの報告

(各地区長)

- (青梅) 5月30日 役員会。
 (福生) 6月5日 総会。
 (羽村) 5月30日 地区会。議題「福生病院の問題について」。
 (あきる野) なし。
 (瑞穂) なし。
 (日の出) なし。

(Ⅳ) その他**西多摩三師会総会および懇親会**

日時：6月24日(土) PM5:00～6:00 総会 6:00以降 懇親会
 場所：フォレストイン

【2】 報告承認事項

- (Ⅰ) 入会会員について — 承認 —
- (Ⅱ) 多摩医学会役員の推薦について
 学術部 細谷先生に一任
- (Ⅲ) 東京労働保険医療協会評議員の推薦について — 承認 —
 大聖病院 宮川栄次先生

【3】 協議事項

- (Ⅰ) 平成11年度収支計算報告等の承認について — 承認 —
- (Ⅱ) 平成11年度西多摩地域産業保健センター精算報告及び平成12年度同センター委託事業実施計画(案)の承認について — 承認 —
- (Ⅲ) 広告協賛依頼(多摩地区中学校選抜卓球大会)(継続協議)
 西多摩医師会としては、今回は協賛しないこととなった。

(IV) その他

○総会活性化施策について

今後、継続して検討していかなければならない。

○地域一般住民向け事業について

— 承認 —

地域一般市民向け事業企画書

(目的) 社会への福祉活動の一環として

(主催) 社団法人 西多摩医師会

(事業名) 室内楽ふれあいコンサート 「心の耳に感動を」

演奏者：ホルン…ハンス・ピツカ氏（ドイツの代表的ホルン奏者）

クラリネット…近藤 良氏

ピアノ…白沢暁子氏

*ヨーロッパ各地の音楽祭でよくみられる三重奏です。

(対象) 西多摩地域各種障害者団体（案内状を発送し家族を含めて参加者募集）

医師会員・医療・保健・福祉関係者及びその家族

一般市民（各市町村広報誌・地方新聞にて募集）

*事前に西多摩医師会へ申し込みをしてもらう。約1000名予定。

(後援) 各市町村、社会福祉協議会、多摩川・秋川保健所等にお願ひする。

(日時) 平成12年10月26日(木) 午後6時30分開演…演奏者の都合で

入場無料

(会場) 収容人数・音響・付属設備（特にピアノ）・予約状況などを考えると、福生市民会館大ホール（1210名収容）が望ましい。

(予算) 会場費・通信費・出演料など、約80～100万円が見込まれる。

(担当) 総務部。

5月定例理事会

平成12年5月22日

西多摩医師会館

【1】 報告事項**(I) 都医地区医師会長協議会報告**

(宮川会長)

1. 都医からの伝達事項**(1) 生活習慣改善指導推進事業の各地区医師会における取組み状況について**

この事業の取組み状況について（5月25日現在）調査する。

1) 糖尿病 2) 高血圧 3) 高脂血症 4) 喫煙 の順

(2) 日本医師会の実施する「市（区）町村におけるがん検診について」の調査について

がん検診の経費が一般財源化してから後の市町村での実施状況を調査するので御協力を願いたい。

- (3) 「元気がいいね」発刊について
「すこやか東京」に代わって「元気がいいね」を年6回発刊するので配布をお願いしたい。
- (4) 介護保険について
- ① 新規指定保険医療機関に対する「みなし指定」の意向の確認等について
又、訪問看護に係る介護給付費算定に係る加算体制の届け出を依頼する必要がある。
 - ② 東京都高齢者保健福祉計画について
パンフレットを参照されたい。
 - ③ 東京都介護保険事業支援計画について
パンフレットを参照されたい。
 - ④ 平成12年度「かかりつけ医歯科医意見書」の活用モデル事業(案)の概要について
13区市町村をモデルに6月実施予定とする。(適切な要介護認定に資するため)
- (5) 老人保健施設設置状況について
先月より7施設増加し、87施設。
- (6) 東京都医師会ホームページ介護保険のページ追加について
- (7) 特別管理産業廃棄物管理責任者の選任について
- (8) 特別管理産業廃棄物処理実績報告書等の提出について
- (9) 日本医師会認定産業医制度における研修会の指定について
- (10) 平成12年度関東甲信越静学校医協議会の開催並びに参加者募集について
8月25日横浜ベイシェラトンホテルにて開催、参加者は5月末日までに。
- (11) 学校医執務記録について
- (12) 東京都医師会共済部会平成12年度新規部会員加入促進の実施について
- (13) 平成12年度国民健康保険医療費通知の実施について
平成12年5月診療分を平成12年8月から9月までに
“ 9月 “ “ 12月から9月までに通知する。

2. 協議事項

なし。

3. 地区医師会からの報告

- (1) 浅草医師会ホームページの開設について（浅草医師会）
- (2) 東久留米医師会ホームページの開設について（東久留米医師会）

4. その他

- (1) 介護保険ニュースについて
- (2) 東京都精神保健福祉協議会資料について
- (3) 東京都精神保健福祉協議会講演会について

(II) 各部報告

(各部長)

(総務部) 6月15日新会員との懇親会名簿について。

前回以降の新会員 (A) 平成12年5月

平成11年6月	今川 学	(社福)たま紫水会 特養ホーム紫水園診療所
平成11年6月	山田 裕	愛弘園診療所
平成11年6月	横内 正利	いずみクリニック
平成11年6月	野村 中夫	田園皮フ科クリニック
平成11年6月	佐藤 貞之	(医社)秀仁会 老人保健施設さくら
平成11年11月	西村 昭彦	(医社)博生会 西多摩病院
平成11年11月	森 智之	森 眼科
平成11年12月	瀬戸 博美	(医社)優和会 佐藤腎・高齢者クリニック
平成12年2月	原田 重秋	(医社)三秀会 仁友病院
平成12年3月	星野 照夫	牛浜内科クリニック
平成12年4月	菊池 貞雄	(医社)幸悠会 鈴木慈光病院
平成12年4月	山口賢一郎	山口内科クリニック

ポリオワクチンのトラブルあり、ポリオ予防接種は一時中止の状態にある。

(学術部) 多摩医学会役員推薦の報告

宮川 栄次 先生 坂本 保己 先生 塩澤 三朗 先生
 大河原 周 先生 馬場 真澄 先生 松山 健 先生
 ○任期 平成12年4月から平成13年3月まで

学術委員会報告

生涯教育申告書提出率 413名中 387名提出 提出率 93.7%
 市民健康講座開催の予定

三公立病院学術講演会の開催（最近のトピックスについて）
 パネルディスカッションについて（虚血性心疾患について）
 平成12年度地域医療研修推進事業実施について

(病院部) 第1回医療機能連携推進委員会報告

開催：平成12年5月9日

出席：坂本（委員長） 石田（副委員長）

大塚、唐橋、川島、川辺、高木、中谷、馬場、小机、
 玉木、横田、細谷

平成12年度の地域医療連携事業2年目に入るにあたり、東京都から事業推進と実施に対して向こう2年間、500万円余の予算措置がとられる。このことについて、具体的な事業内容の検討を行った。

議題：1. 救急患者の収容機能を促進するためのインターネット設置について。

- A) 二次救急以上を取り扱う病院施設にパソコンの設置とホームページ開設、特に空床情報と対応情報を提供。診療所からの要請に対し、搬送先情報を即時提供する。（現在、ハードを備えているか、情報入力に常時可能か、などの調査を対象施設に行なう）
 B) 救急施設の空床準備の促進には、後方ベットの確保が必要であり、まず慢性期型施設のベット状況を提供するインターネットの設置が容易で効果が上がる。

両方の案に賛否を討議したが、診療所施設では救急に際しての現在の混乱を避けるには、救急施設間の収容可能な情報を知ることがまず必要であることが意見として強く、さらに救急施設への調査を含め、検討を進める予定である。

2. 西多摩地区病院会との合流について。

医師会にオブザーバーとして非会員施設の参加は可能であり、前向きに地域医療の一翼として連携事業を協議することは今後重要な方向と考える。

(Ⅲ) 各地区会よりの報告

(各地区長)

- (青 梅) 5月30日 役員会。
 (福 生) 7月2日 総会。
 (羽 村) 5月30日 地区会。
 (あきる野) 5月15日 地区会。福生病院について意見交換。
 (瑞 穂) なし。
 (日の出) なし。

(Ⅳ) その他

- 米寿・白寿の会員に対するお祝いについて

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

— 承認 —

(II) 平成12年度日の出町立保育園囑託医の推薦について — 承認 —

大正保育園	進 藤 晃 先生
大久野保育園	湯 川 文 朗 先生
さくらぎ保育園	川 崎 健一郎 先生
宝光保育園	神 尾 重 則 先生

【3】 協議事項

(I) 公立福生病院移管準備室と意見協議会報告

5月18日、医師会代表と準備室との間で、意見協議会が開かれた。医師会の要望について特別意見の相違はみられなかった。福生病院は2次救急体制をとる予定。

(II) その他

- 納涼会：西友福生店で開催の予定。
- 平成12年度第一回定時総会次第について

会員通知

- 産業医研修会（都医会）
- “ （日本医科大学医師会）
- “ （日本心身医学会）
- “ （茨城産業医研究会）
- “ （慈恵会医師会）
- 診療報酬請求書の記載要領に関する情報提供について
- 平成12年4月診療報酬点数改正Q&A
- 介護給付費（介護報酬）の請求について
- ポスター（主治医意見書作成いたします）
- 12年第1期会費納入について
- 会報
- 老人医療受給者の薬剤一部負担軽減特例措置の延長について
- 妊婦・乳児健康診査及び精密健康診査に係る委託料の変更について
- 領収書の発行について
- 改正診療報酬点数表参考資料（平成12年4月1日実施）通知の追加及び正誤について
- 再診料における継続管理加算の算定解釈の変更について
- 地区医師会介護保険担当者連絡会質問回答集
- 介護保険事業者番号通知における問い合わせ先電話番号の訂正について
- 労災保険診療費改定のお知らせ

各部だより


学術部
Information

《6月》
西多摩医師会学術講演会のご案内

- 1** 日 時：平成12年6月16日(金) 19:30～
 場 所：西多摩医師会館
 演 題：『動脈硬化－病理から臨床へ』
 多摩南部地域病院内科 部長 塚 田 豊 弘 先生
 共催：山之内製薬株式会社
- 2** 日 時：平成12年6月23日(金) 19:30～
 場 所：西多摩医師会館
 演 題：『肝炎・肝硬変・肝癌の最新の診断と治療』
 青梅市立総合病院消化器科 部長 宮 川 八 平 先生
 共催：住友製薬株式会社

〈学術講演会聴講メモ〉

平成12年5月12日(金)

演題：新しい糖尿病経口薬の有用性と位置付け
講師：帝京大学内科学講座 教授 山 内 俊 一 先生

最近糖尿病の薬剤として6系統もの薬剤が出てきて、専門医でもその使い分けが難しくなってきた。ここでは、ノスカールが製造中止になったこともありアマリールを中心に糖尿病治療薬の使い方について紹介する。アマリールは非常に分かりやすく、その位置付けがやりやすい薬剤である反面、CPKの上昇を伴う心拡大が問題になってきている。しかし欧米ですでに10年近く使用され症例数も多く有効性と副作用もそろっている薬剤である。

従来糖尿病の病態としての分類は、インスリン合成障害の1型糖尿病 (IDDM) とインスリン作用障害 (抵抗性) の2型糖尿病 (NIDDM) の2つに分類されてきたが、最近SU剤の受容体が発見されたのに伴い2型糖尿病にインスリンの膵放出障害と言う概念が

加わった。この2型糖尿病はインスリンを作る能力があるので、その治療薬として経口糖尿病薬が使用される。

糖尿病の治療薬としてはすでに40~50年前からSU剤が使用されてきたが、従来のSU剤の難点として、1) 膵β細胞の疲弊、2) 体重増加(二次無効)、3) 重篤な低血糖(年間何10例も死亡例あり)、4) 高インスリン血症(動脈硬化)があった。

さて、新しい血糖降下剤には6系統出てきました。まず各種SU剤、次に消化酵素阻害剤、次にインスリン抵抗改善剤、同時期に以前使用されていたビグアナイド剤(メトフォルミン)が再評価され、次にナテグリニド、そしてグリメピリドである。グリメピリド(アマリール)は、現在では最も強力で膵外作用を有する、すなわちインスリン分泌のみに頼らない、インスリン抵抗性改善剤とも言える薬剤である。グリベンクラミドの最大投与量の7.5mg/dayからの切替えてHbA1cで0.2~0.4下がるとされている。

膵外作用のポイントは、ノスカールの開発の際にレスポnderはどのような症例かを調べた時にHOMA指数が考案され、これが5~6以上はよく効く症例が多い成績であったことから、インスリンの分泌が保たれていることが必要で血中にインスリンが少しあった方が効果があることがわかった。HOMA指数 = $[\text{FBS (mg/dl)} \times \text{早期空腹時 IRI}] \div 400$ の計算式で算出される。臨床的に真性の1型糖尿病は無効例が多い。血中インスリン濃度が必要のためSU剤からの切替え時にはしばらくSU剤を併用した方が良い。また双方とも単独では効果がなかったのがSU剤とノスカールを併用することにより有効となった。

アマリールにも膵外作用があると思われる。実験的に培養液のインスリン濃度が高い程脂肪細胞におけるグルコースの取り込みがふえることが証明されている。しかしアマリールには独特の作用であるラット心筋細胞のグルコース取り込みの促進作用があり、これはインスリンに近い作用を有していると言ってもよい。これはノスカールにはない作用で、単独でグルコースを取り込む作用を有することが大きな違いである。臨床的にはアマリールは、血糖が下がっている割にはインスリンは上昇せず従来のSU剤に比べて血中インスリン分泌量は少なく、したがってSU剤に比べて低血糖の出現は少ない。

各種SU剤における血糖の下がり具合を投与後4週でみると、オイグルコンの初期投与量2.5mgでは急激に血糖が下がるが、それに伴い眼底出血や低血糖の危険が出てくるため、初期投与量は1.25mgが適当と思われる。長期放置の糖尿病に対して急に血糖を下げると眼底出血の危険性が高く、したがって血糖の降下速度は1.5-AGで1ヶ月に2~4μg/ml位で止める。これをHbA1cでみると2ヶ月の血糖変化をみているので急に血糖が下がったことに気が付かない場合があるので注意が必要である。その他の薬剤でも初期投与量は少なめから始めると良い。

インスリンが多いと低血糖事故を起こしやすいがそれ以外にもインスリンは肥満を起こしやすい。インスリンは血管の中のグルコースを減らす、そのグルコースを脂肪組織に入れる。したがって就寝前の食事は肥満を呼ぶ(夜食症候群)と言える。SU剤でもインスリンを出させると同様の事が起こり肥満につながる。アマリールはインスリンをあまり出さないため肥満にならないという特徴がある。ヨーロッパ各国での治療成績でもHbA1c

は下がっても体重増加は来さなかった。

グルコースは蛋白と結合しやすく毒性的物質として作用するため高血糖のままだと人間の寿命は10~20年であると予想される。そこで人間やチンパンジー、ゴリラなど高等生命体にはのみインスリンが分泌され寿命が長いのである。インスリンには副次的作用として各臓器の増殖促進作用がある。高インスリン血症では血管壁の増殖すなわち動脈硬化がおこり腫瘍の増殖として例えば子宮体癌に注意する必要がある。したがってNIDDMへのインスリンやSU剤投与には慎重さも必要になってくる。インスリン投与は20単位を越えた場合は必ず2回打ちとする。1回打ちだと必ず高インスリン血症のため動脈硬化が進展する。インスリン注射をしている患者では、FBSはコントロールの基準にはならない。

薬剤の開発により帝京大学内科外来の糖尿病患者のうちHbA_{1c}が8.0%以上の割合は1992年は36.5%であったのが1999年には24%に減少した。しかしHbA_{1c}が6%~8%の患者の比率はあまり変わらなかった。薬剤の効きが悪い患者の特徴は服薬コンプライアンスが悪いことにある。糖尿病経口薬の使い分けは、服薬コンプライアンスや食習慣とともに患者の性格や社会環境を考えて行わなければならない。

糖尿病経口薬の併用療法としては、原則としてSU剤が軸となり、その都度ビッグアナイド或いはインスリン抵抗性改善剤、 α GI剤を併用する。ナテグリニドのみ併用不可である。 α GI剤とは認められているものの併用すると薬代が高すぎるため実際には処方されない。アメリカではインスリンの量を減量できるためインスリンとアマリールの併用が行われている。薬の使い方としては、まず基礎高血糖の患者に対してSU剤、インスリン抵抗性改善剤、ビッグアナイド剤、インスリンを投与し、食後過血糖の患者に対して α GI剤、ナテグリニド、インスリンを投与する。

2型糖尿病の基本的な初期投与方法は、肥満例に対してインスリン抵抗性改善剤、ビッグアナイド、 α GI剤であり非肥満例に対してはSU剤、グリメピリド、ナテグリニドとなる。グリメピリド(アマリール)の大きなメリットは、1日1回投与で良い点にある。グリベンクラミド(ダオニール、オイグルコン)からグリメピリド(アマリール)への切替えは、オイグルコン2.5mgからはアマリール2.0mgへ、オイグルコン5.0mgからはアマリール3.0mgへ、オイグルコン7.5mgからはアマリール6.0mgへとなる。ちなみにオイグルコンは5.0mgまでは朝1回投与、オイグルコン7.5mgは(2-0-1)が原則である。

治療開始薬として切れ味重視の場合、HbA_{1c}8.0%以下ではグリクラシド(グリミクロン)40mg、グリメピリド(アマリール)0.5mg~1.0mg、HbA_{1c}8.0%以上ではグリベンクラミド(ダオニール、オイグルコン)1.25mg~2.5mgであるがいずれはグリメピリド(アマリール)に変わっていくと思われる。安全性重視の場合、HbA_{1c}8.0%以下では α GI剤(ベイスン0.9mg、グルコバイ150mg)、ナテグリニド270mg、HbA_{1c}8.0%以上ではビッグアナイド500mg~750mgが推奨される。慣れた先生は追加薬としてピオグリタゾン(アクトス)30mgがある。いずれにしても薬剤性肝障害には十分注意して下さい。

広 報 部

公立阿伎留病院 外来部門診療担当医表

平成12年5月1日現在

	月	火	水	木	金	土
1 内 科	馬 場	岩 城	矢 嶋	馬 場	蓬 田	
2	佐野/江本	江 本	蓬 田	赤 尾	宇 高	
3	野 本	馬 場	江 本	高 砂	青 木	
4	平 沼	児 浦	佐 野	平 沼	佐 野	
午後診(専門)	呼吸器(児浦)	血液(青木)		喘息・HOT-(佐野) 血液(馬場)		
リウマチ科			西成田		坂 本	
専門外来	神経内科(多田) 糖尿病(滝口)			糖尿病(滝口)		
血液透析	午前	蓬 田	野 本	宇 高	赤 尾	
	午後	蓬 田	蓬 田		蓬 田	
	夜間	宇 高		野 本	赤 尾	
人間ドック		蓬 田		馬 場	馬 場	
小児科	岩 本 小 林	岩 本 小 林	岩 本 小 林	岩 本 小 林	岩 本 小 林	
専門外来(午後)	乳児検診(予診)	予防接種(予診)	予防接種(予診)			
1 外 科	矢嶋(予診)	五十嵐	矢 嶋	矢嶋(予診)	五十嵐	
2	三 松	矢 嶋	河野(影蔵)	上 原 永 田		
整形外科 (特別診)	小谷野 坂 本	小谷野 坂 本 (佐 野)	小谷野 小 野	坂 本 横 山	小谷野 小 野	
脳神経外科	前 村	藤 塚	前 村	矢 崎	伊 藤	
皮膚科 (午後診)	藤 田 予約検査	藤 田 アレルギー外来(早川)	藤 田 凍結療法	藤 田	狩 野	
泌尿器科	朝 岡	嶺 井	朝 岡	朝 岡	朝 岡	
産婦人科	森 田 斉 藤	森 田 佐 藤	森 田 斉 藤	森 田 斉 藤	斉 藤 百 村	
眼 科	平 岡 渡 邊	山 本 早開・渡邊(手術)	平 岡	丸 山 早開・渡邊(手術)	渡 邊	
	予約検査	コンタクト完機	予約検査	予約検査	蛍光眼底検査予診	
耳鼻咽喉科	河 合	河 合	河 合	佐 久 間	河 合	
	アレルギー外来	手 術	予約外来	手 術	予約外来	
麻酔科			丸 茂			
歯 科	山下・野村	山 下	北 原	山 下	山 下	

休 診

内科診療及び午後診療は予約を要します。

内科外来月曜日は佐野(第1・3・5週)/江本(第2・4週)が診療を行いません。

歯科外来月曜日(第1・3・5週)は野村が診察(インプラント)を行います。

広 報 部

青梅市立総合病院 救急医学科

部長 八木 啓一 先生

6月の救命救急センター開業と同時に、卒後9～20年目の5名のスタッフによる救急医学科の診療がスタートします。それぞれが一般外科修練の上に脳外科・心臓外科・麻酔科などのサブスペシャリティーを持っていますが、全員が少なくとも3年以上の救命救急センターでの経験があり、外科系だけでなく集中治療全般の専門家であるという自負があります。しかしここでは三次救急だけにこだわるのではなく地域のニーズに合わせて二次救急的な症例にも積極的に取り組んで行こうと思っています。ただ当面の間、休日・夜間はスタッフ1名、院内研修医1名、待機1名の体制ですので、一次二次の患者がどっと押し寄せて救急医を疲弊させてしまうのではなく、どうか我々の力が充分発揮できるような有効な利用をして頂きたいとお願い申し上げます。

地区だより

青梅地区

第31回 市民健康の集い

5月21日、例年の如く青梅市総合体育館で、青梅市三師会・多摩川保健所・青梅市主催の「市民健康の集い」が開かれました。曇天のためか、参加者は昨年より多く、開場の午前10時、入口には長蛇とは言えないながらも、一応の待つ人の列ができました。真先にスタンブラリーの記念品を目指す子供達が走りこんできて、会場に散らばりました。歯科相談チームの背中に「マルに歯の字」の黄色い揃いの印ばんでんが目立ちます。お子さん向けの紙芝居が好評であり、体脂肪測定の人気も相変わらずであったそうです。医師会は健康相談を受け持ちましたが、例年よりお年寄りが少

なかったのではないかと言う声がありました。

目玉の講演の演題は「笑い与健康」、講師は三笑亭笑三師匠。落語家の1時間半の講演、どんな話になるのか興味がありましたが、さすがはベテラン、「結論から申し上げます」と、笑いは健康の元、言葉は笑いの元、言葉は人間関係をよくする元であり、言葉は心を持っています、利害を考える頭をカラッポにして、心で話すとうまくゆきます、と紋付羽織袴で演壇の前に立って、身振り手振りよろしく、落語の手法を駆使して、終始、聴衆の笑いを誘いながら、時間ピッタリに講演を終わりました。
(石井好明)

青梅地区

匠会(たくみかい)紹介

青梅市などのゴルフ愛好会員のプライベートコンペをおおよそ年2回のペースで開いています。足立先生を中心に行っていますので、匠会(たくみかい)と名付けています。1994

年から数えて今年3月で11回めとなりました。特徴は足立先生が腰を痛めていますので、カートで回るか河川敷の様な純フラットコースに限っているという点と、和気あいあい度うま

い方はいないという点です。優勝するとハンディ3割減ですので、皆が優勝のチャンスがあります。日の出地区の川崎先生も常連のごとく、参加者はとくに青梅に限っていません。どなたでも大歓迎です。のんびりとスコア無視でゴルフを楽しみたい方々は是非ご一緒にどうぞ。(現在の幹事は片平です)

(片平潤一)



文芸随筆諸事百般

新 緑

鹿野純一

休日は子供の声で目が覚める
年をとっても通勤のくせ

ぼんぼんとボールの練習耳ざわり
子供の頃の我も同じ

新緑につつまれベンチでひと休み
連休のあと人出は少ない

鳥の声高く聞える公園に
赤白青の花のほゝえみ

うちの犬パトカーの音まねをする
夜中に細く長くそっくり

鯉のぼり

鹿野純一

青空にゆっくり泳ぐ鯉のぼり
風強くなり竿だけになる

どの家も昔は日の丸立てかざり
学校で貰う紅白まんじゅう

孫達に五月節句に古紙で
かぶとを折らせかぶせて撮影

露使い汁を吸ってしかられた
まねをするなど孫に教える

ポンポンとボールの練習耳ざわり
孫の元気に聞きのがしてやる

晴天に待合室の前庭は
赤白青の花のほゝえみ

注記(先輩に日本の伝統の歌詠みに元気を

出せと励まされました。

どなたでもお便り下さい。)

同好会短信

写真部 写真展のご案内

毎年春秋に開催している写真展も、今回で13年目に入り25回目を迎えることになりました。毎回会員のご来場が少なく、部員一同淋しい思いをしています。今回は是非見に来て下さい。

場 所 羽村市コミュニティセンター2階（羽村市役所隣）

日 時 6月12日(月)～18日(日)

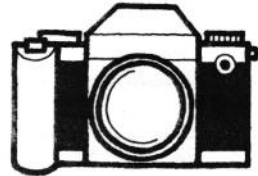
出品予定者

青梅：近藤 肇・石井好明・坂本保己・細谷純一郎

羽村：真鍋 勉・稲垣壮太郎・松原貞一

福生：鹿野純一・田村啓彦

瑞穂：小林康光



写真家、桜井保秋氏を招いて批評会も開いています。同好会員の入部、大歓迎。

連絡先 松原 TEL (042-554-2427)

(松原貞一)

お知らせ

事務局よりお知らせ

平成12年7月（6月診療分）の

保険請求書類提出日

7月8日（土）

—— 正午迄です。 ——

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談下さい。

- ◎ 相談日 6月は14日（水）
7月は12日（水）の予定です。
 - ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
 - ◎ 内 容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎ 相談料 無 料（但し相談を超える場合は別途）
 - ◎ 申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

御岳は秋の紅葉が一番であるが、新緑に囲まれた玉堂記念館の風情も捨て難い。

松原貞一



あとがき

5月の連休を利用して博多どんたくを見に行ってきました。「博多どんたく」は、820年の歴史を持つ民俗行事の「博多松ばやし」をその起源とし、それを博多町人が代々受け継いで発展させてきた市民の祭りです。パレードには、昔ながらの伝統を守っているものもあれば、現代風のものもありさまざまです。土地の人の話によればこの祭りは人に見せるものではなく、参加者それぞれが自分たち自身で楽しむものなのだそうです。近頃は大方昔と変わってきたと嘆いている人もいました。連休中は約200万人の観光客で賑わう全国一のイベントになっています。「どんたく」の名の由来は、オランダ語のゾンターク（休日）からきています。半どんも半分どんたくという意味です。しかし、「どんたく」以上に日本中の耳目を惹いたのは、17歳のバスジャックでした。

さて今月号から新しい編集スタッフになりました。よろしく願い申し上げます。

森本 晋



社団法人 西多摩医師会

平成12年6月1日発行

会長 宮川栄次 〒198-0044 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 森本 晋

石井好明 神尾重則 片平潤一 込田茂夫
清水佐和道 高水松夫 田村啓彦 細谷純一郎

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康の輝きをひろげる。



株式会社 **ビー・エム・エル**

本社・〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(大代表)
総合研究所・〒350 埼玉県川越市の郷1361-1 TEL.0492-32-0111(代)

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のバイオニア

保健科学研究所

本社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)
仙台支社 〒983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)